

第2部 基本構想

第1章 基本理念と将来像

1 村づくりの基本理念

本村は、豊かな自然に恵まれた環境の中で、農林水産業を中心に集落を形成し、生活環境を整え、商工業や教育・福祉をはじめ、様々な施策を行いながら発展を遂げてきました。

先人が幾多の試練をのりこえて築き上げた村は、開基から120年が経過しましたが、これを将来にわたって持続・発展していくためには、村民憲章にうたわれるように、“先人の偉業を尊び、力を合わせて豊かな郷土の未来を築く”ことを村民全員で共有し、本村が有する資源や新たな可能性、人や地域のつながりを生かした村づくりを進めていくことが重要です。

これらを踏まえ、村民の幸せな生活の実現と村政のさらなる発展を目指すため、本計画における4つの基本理念を次のとおり定めます。

I 自然を生かした活力ある村づくり

恵まれた自然を生かした農林水産業の持続的発展と、地域の元気と暮らしを支える商工業・観光の振興を図り、活力に満ちた村づくりを進めます。

II 快適で元気に安心して生活できる村づくり

子どもや高齢者にもやさしい福祉・医療が充実し、生活環境が整い、互いに助け合って、誰もが安全・安心で健康に暮らすことのできる村づくりを進めます。

III ころ豊かにたくましさを育む村づくり

豊かな自然に学び、文化に触れて想像力を養い、健康な汗を流して、強くたくましく時代を切り拓く力を持った人が育つ村づくりを進めます。

IV みんなが主役でみんなが一体となる村づくり

村民が積極的に参画し、村民と行政が一体となるため、行財政の情報や目指すべき方向性を共有し、協働の村づくりを進めます。

2 将来像

将来像は、本村の目指す姿を示すものであり、これからの村づくりの象徴となるものです。本村を取り巻く状況を踏まえ、村づくりの基本理念に基づき、目指す将来像を次のとおり定め、本計画の基本テーマとします。

【将来像】

人と自然 結び合いきらめく村
しょさんべつ

将来像「人と自然 結び合いきらめく村 しょさんべつ」は、本村の特徴である豊かな大自然を大切に、村づくりの様々な分野における取組みにつなげて生かすとともに、規模が小さいからこそできる人と人とのつながりをより強くしていく中で、村民一人ひとりが成長し、自分のフィールドで活躍して夜空の星のようにきらめき、それがつながって村全体が活気にあふれて輝き出すという村づくりへの想いを表しています。

規模が「小さい」からこそできることは、本村の特徴であり、強みといえるものです。それは、「身近な営み・自然」を生かすことや「人のつながり」の強さにつながるもので、現在「それが当たり前」にあることを大事にして、維持し続けることが重要です。これらを基盤にして、将来像「人と自然 結び合いきらめく村 しょさんべつ」を実現するため、村民が一体となって、新たな「初山別ならではの取組み」を進めていきます。

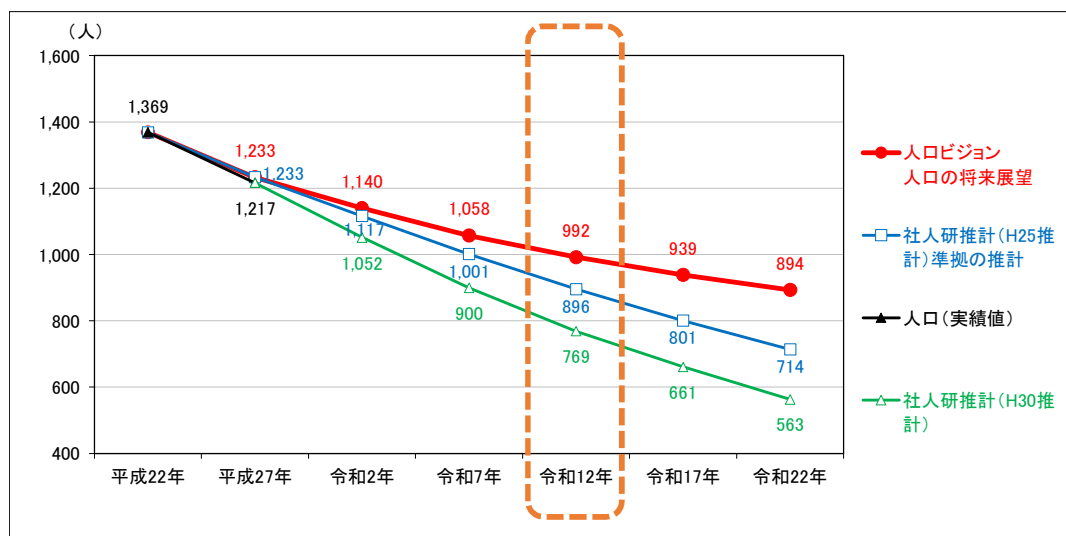
3 人口の見通し

本村の総人口（平成 27 年国勢調査）は 1,217 人で、長期的に人口減少が続いてきています。また、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の人口推計（「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」によると、本計画の目標年度である令和 12 年には、769 人まで減少するとされています。

これを踏まえ、今後も引き続き“住み続けたい”と誇れる村づくりに取り組み、人口減少の抑制につなげていくことにより、本村の令和 12 年の人口は、992 人になることを見込みます。

なお、「初山別村人口ビジョン」では、「2040 年に 894 人」になることを展望しており、本村の令和 12 年の人口の見通しは、その過程の数値を算出したものとなっています。

【人口の見通し】



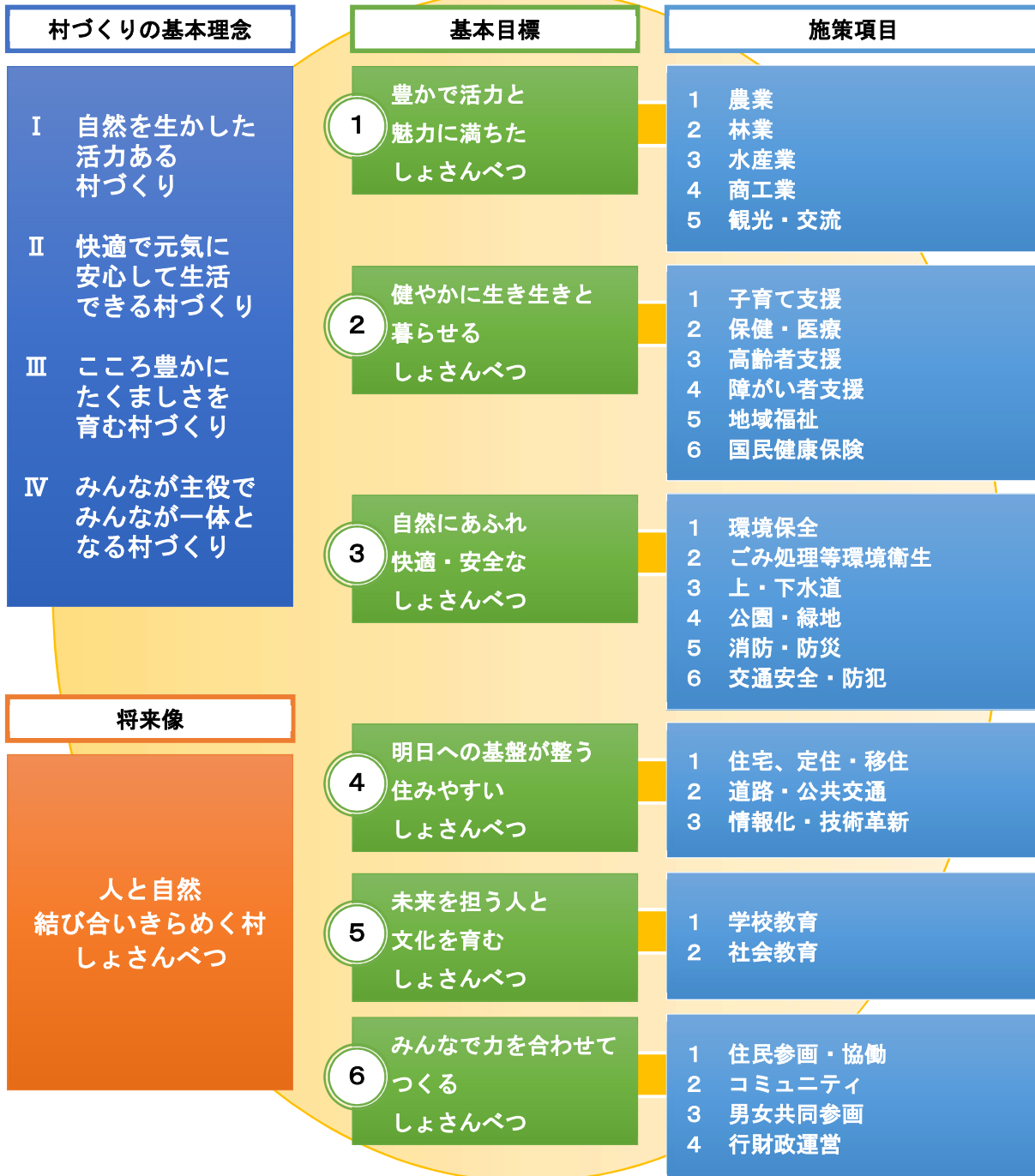
資料：国勢調査、社人研「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」、初山別村人口ビジョン
 注）「人口ビジョン 人口の将来展望」及び「社人研推計（H25 推計）準拠の推計」は、「初山別村人口ビジョン」より取得した値。「初山別村人口ビジョン」は、平成 27 年度に策定し、「日本の地域別将来推計人口（平成 25 年 3 月推計）」に基づき令和 22 年までの人口を展望しているため、平成 27 年以降は推計値となっている。

注）「人口（実績値）」は国勢調査結果、「社人研推計（H30 推計）」は社人研の「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」より取得した値。「社人研推計（H30 推計）」は平成 27 年国勢調査結果に、「社人研推計（H25 推計）準拠の推計」は平成 22 年国勢調査結果に基づき、推計が行われたため、推計結果が異なるものとなっている。

第2章 計画の体系と方針

1 計画の体系

将来像の実現に向け、本計画の体系を次のとおり定めます。



2 基本目標ごとの方針

将来像の実現に向けて、新たな村づくりの基本目標（6つの施策の柱）を次のとおり設定します。

1 豊かで活力と魅力に満ちたしょさんべつ

本村の基幹産業である農業の維持と新たな展開に向け、担い手の育成・確保や農業生産基盤の一層の充実をはじめ、多面的な農業振興施策を積極的に推進するとともに、森林の適正管理・整備の促進や木材の利活用の促進に努めます。水産業については、後継者の育成や漁場造成の促進、加工品開発等を進めます。

また、賑わいのある村づくりに向け、商工業経営の安定化を支援していくほか、観光・交流から移住への展開を見据えた観光・交流人口や関係人口の拡大に向け、みさき台公園を中心とした体験型メニューの開発や特産品のPRの強化等により、観光・交流機能の強化に取り組みます。

- 1 農業
- 2 林業
- 3 水産業

- 4 商工業
- 5 観光・交流

2 健やかに生き生きと暮らせるしょさんべつ

若い世代が子どもを産みやすく育てやすい環境づくりを一層進めていくため、村全体で結婚・妊娠・出産・子育てを応援する体制の強化を図るほか、村民一人ひとりが健康で長生きできるよう、村民による自主的な健康づくりの促進をはじめ、きめ細かな保健サービスの提供、診療所の機能の維持・充実を図ります。

また、高齢者や障がい者が生きがいを持ち、住み慣れた土地で安心して暮らし続けることができるよう、介護・福祉サービスの充実を図るとともに、誰もが「我が事」として支え合う地域福祉活動の促進に努めます。

- 1 子育て支援
- 2 保健・医療
- 3 高齢者支援

- 4 障がい者支援
- 5 地域福祉
- 6 国民健康保険

3 自然にあふれ快適・安全なしょさんべつ

村民が住み続けたいと思い、村外の人に移り住んでみたいと思う、美しく快適な生活環境づくりのため、総合的な環境保全対策や、循環型社会の形成に向けた環境衛生対策を進めるほか、上・下水道施設の適正管理、公園・緑地の整備充実を図ります。

また、あらゆる危機に強い安全・安心で強靱な村づくりに向け、全国的に相次ぐ大規模災害の教訓を踏まえた消防・救急体制や防災・減災体制の強化を図るとともに、高齢化の進行をはじめとする近年の環境変化を踏まえた交通安全・防犯対策を推進します。

- | | |
|-------------|-----------|
| 1 環境保全 | 4 公園・緑地 |
| 2 ごみ処理等環境衛生 | 5 消防・防災 |
| 3 上・下水道 | 6 交通安全・防犯 |

4 明日への基盤が整う住みやすいしょさんべつ

安全・安心な住宅・住環境の確保に向けた取組みを進めるとともに、相談・情報提供体制の充実、空き家の活用などの定住・移住を直接的にサポートする取組みを進めます。

また、村民の利便性と安全性の向上に向け、国道の整備促進や村道の整備・維持管理、路線バスの維持促進や新たな交通体系の構築に努めるほか、村民サービスの向上や行財政運営の効率化、地域活性化につながる、未来を見据えた社会基盤として、さらなる情報化や技術革新の利活用を図ります。

- | | |
|------------|------------|
| 1 住宅、定住・移住 | 3 情報化・技術革新 |
| 2 道路・公共交通 | |

5 未来を担う人と文化を育むしょさんべつ

本村の未来を担う子どもたちが、生きる力を身につけ、心身ともにたくましく成長していくことができるよう、学校設備の整備や学校・地域・家庭が一体となった学校教育環境の充実を図ります。

また、村民が文化・スポーツ活動をとおして生涯にわたって自ら学び続け、生きがいを感じる充実した生活を送ることができるよう、社会教育の環境づくりを進めます。

1 学校教育

2 社会教育

6 みんなで力を合わせてつくるしょさんべつ

多様な主体とともに村づくりを進めるため、村民や村民団体、民間企業等の積極的な参画・協働を促進するとともに、地域住民が支え合い助け合う地域づくりに向け、自主的なコミュニティ活動を支援します。

また、すべての人がお互いを尊重し、ともに生き、ともに活躍できるよう、人権教育・啓発を推進するとともに、男女共同参画社会の形成に向けた意識啓発や条件整備を進めます。

さらに、将来にわたって持続可能な行財政体制を確立するため、さらなる行財政改革や広域連携による効果的・効率的な村づくりを推進します。

1 住民参画・協働

2 コミュニティ

3 男女共同参画

4 行財政運営